

◎授業の様子から ～ Part 2 ～

■2月7日(木)4校時 国語：大野先生 1-1

まどみちおさんの「ぼくがここに」という詩の授業でした。詩の表現から読み取れることを話し合いましたが、「ぼくはこう思う」「私はこう思う」といろいろな意見が出され、思わず身を乗り出して話し合っている班もありました。一つの表現に対して、人によって様々な解釈があり、「そういう読みもできるね」と気づくことで深い読みになっていました。「何を言っても大丈夫」と思える学級だからこそその盛り上がりです。楽しそうに話し合う様子が素敵でした。



■2月8日(金)4校時 数学：山本先生 1-34

図形の授業。めあては「円錐の母線と底面の半径と扇形の円周角の関係を見つけ、意見交流する」でしたが、関係を見つけるところは少し難しかったようです。前半は実際に円錐を作ってイメージを膨らませました。展開図から立体を作ることで、どこどこが重なるのかを確認します。2次元の図から頭の中で3次元の立体をイメージするのは、人により得手不得手があります。作図の作業も慣れが大切。右脳と左脳をバランスよく鍛えましょう。



■2月12日(火)1校時 理科：野老山先生 3-1

3年生の放射線の授業。野老山先生は「正しく恐れる」という表現を使っておられましたが、放射線については、その特性を正しく理解して正しく利用することが大切です。避難児童に対するいじめや農作物についての風評などが問題になっていますが、それらは誤った理解や無知から生じています。この時期は、どの教科も、中学校の総まとめとして、「主権者としてどう生きるか」を考える授業になります。受験期にありながら、皆しっかりと授業に向き合っていました。



前号に引き続き、授業の様子を紹介します。思考力・判断力・表現力を高める授業を目指しています。

■2月12日(火)3校時 家庭科：市川先生 2-3

「家庭生活に必要な物質・サービスと優先順位を考え、商品を選択する」をめあてに、様々な形態の模擬家族(祖母・母・私・姉など)を作り、役割演技をしながら、生活に必要なものを出し合ってグループで話し合い、優先順位を考えました。話し合いでは、家族を思いやる気持ちを感じられ、大いに盛り上がりました。生徒からは「それぞれの役になりきって考えるのが楽しかった」「いつもとは違う目線でほしいものを見つけられた」という感想も出てきて、日常生活を見直す機会にもなりました。



■2月14日(木)1校時 英語：石村先生 2-2

めあては「2つのものを比べて表現しよう」ということで、前回の比較級・最上級に加えて、「as 原級 as」の意味や用法に関する学習をしました。石村先生自作のパワポ資料を見ながら、テンポよく口頭練習が行われ、全員が食い入るように画面を見つめながら発話しています。2年生は声が良く出て、反応が良く、楽しい雰囲気です。個人、ペアでのエクササイズ、小グループでの教え合い、学習内容を使っての表現活動など、50分間、脳はフル回転です。



■2月14日(木)3校時 音楽：齋藤先生 3-3

「大事にしたい歌詞をどのように表現したいか考えて歌おう」というめあてで、「中学時代」「旅立ちの時」の練習をしました。中学校での最後の合唱なので、どの生徒も思いを込めて歌おうと熱心に取り組んでいました。歌詞のないところ(アーの部分)をどう歌うか?についてもパートごとに話し合い、表現しようとしています。3年間の中学校生活を振り返り、旅立ちへの決意をこめた合唱になることでしょう。どんな合唱に仕上がるか楽しみです。



■2月15日(金)1校時 技術：小西先生 2-2

PC 室に入ると自主的に準備をしてタイピングの練習。めあては、パワポ資料を使いながら、6名の生徒がプレゼンを行い、聞き手がそれを評価することでした。パワポ資料では、アニメーションや背景の画像などに興味を奪われがちですが、聞き手は「内容を伝えるためには、どのようなパワポが効果的か」という視点で、話し方や内容との関係を考えながらよく聞いていました。国語でもプレゼンの学習をしています。



■2月15日(金)3校時 国語：勝又先生 2-3

「助動詞の問題をつくってグループで出題し合おう」をめあてに取り組みました。問題を作るにあたって注意することを確認してから、まず個人で考え、4人グループで話し合いました。問題を解くよりも「問題を作る方が勉強になる」ようで、資料集を見直しながらい習事項を確認し、思い思いの問題を作っていました。グループで問題を検討する場面では、身を乗り出しながら熱心に話し合うグループも多かったです。



■2月15日(金)4校時 国語：尾藤先生 2-1

めあては「プレゼンを作るのに必要な要素を考えて発表しよう」でした。プレゼン例の動画を2回見て、気づいた点を班ごとに話し合っってホワイトボードにまとめ、代表者が発表（プレゼン）しました。代表者は、早速、気づいた点を生かして発表しており、力強い肉声、聴衆へのアイコンタクト等、「プレゼンに必要な要素」を考えた成果が出ていました。これからの都内めぐりの学習でプレゼンをする際、活用できそうです。



○「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて

来年度から「特別の教科 道徳」の授業が完全実施されます。いわゆる「道徳の教科化」ですが、その準備として、2月12日(火)に校内研修会を行いました。

5校時に1年2組で「サッカーのマンガを描きたい」という教材を用いて、山本教諭が授業を行いました。この教材は、来年度から使用される教科書に載っているものです。「考え、議論する道徳」への転換を目指し、「目標に向かって努力するには何が必要か」ということについて話し合っって、考えを深めたり広げたりしました。授業の最初には、サッカーについての興味を高めるクイズなどもあり、リラックスした雰囲気です授業が進みました。

事後の研究協議会では、考えが深まる授業になっていたか、より良い授業にするにはどう改善すればよいかについて、3つのグループに分かれて話し合いました。講師の新宿区立四谷中学校の小貝先生（道徳指導教諭）からは、道徳の時間には道徳性のうちの内面的資質(道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲・道徳的態度)を育てることなど、教科化に向けて留意する点や、評価などについて、様々な視点からご示唆をいただきました。

道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」となっています。道徳性は、学校の全教育活動において、また、家庭や地域での生活において育てていくものです。各ご家庭におかれましても「道徳の時間」について話題にしていただけるとありがたいです。

